

輝く未来へ今、袋井が動き出す！～挑戦するDNAを呼び起こせ～

発行日：平成30年5月30日

## しずおか自動運転 Show CASE プロジェクト・ ECOPAドリームプロジェクト 発足式



小笠山総合運動公園（エコパ）を中心とした愛野エリアを「近未来技術を磨く実証フィールド」に位置付け、ヒトや技術の新たな出会いにより、既存産業やまちのイノベーションを促進させる

2018.5.28@静岡県庁

### 「ECOPAドリームプロジェクト」

**(A) モビリティ研究・開発領域**

電動バス・超小型モビリティ等を活用した自動運転の実証ほか

JR愛野駅 エコパ

移動制約者にもやさしい  
ラストワンマイルの自動走行etc

**(B) マルチメディア研究・開発領域**

観光情報、周辺マップ、多言語対応などマルチメディア研究

未来のスポーツ観戦～高臨場技術をもとにしたバーチャル体験～



しずおか自動運転ShowCaseプロジェクト

エコパドリームプロジェクト

連携

E V実験

ドローン実験

マルチメディア実験

小笠山総合運動公園  
を実験フィールドとして活用

**(C) 無人飛行体研究・開発領域**

ドローン等の活用実証フィールド  
国際ドローン競技会の開催など  
空域管理でドローンの安全  
運航を実現

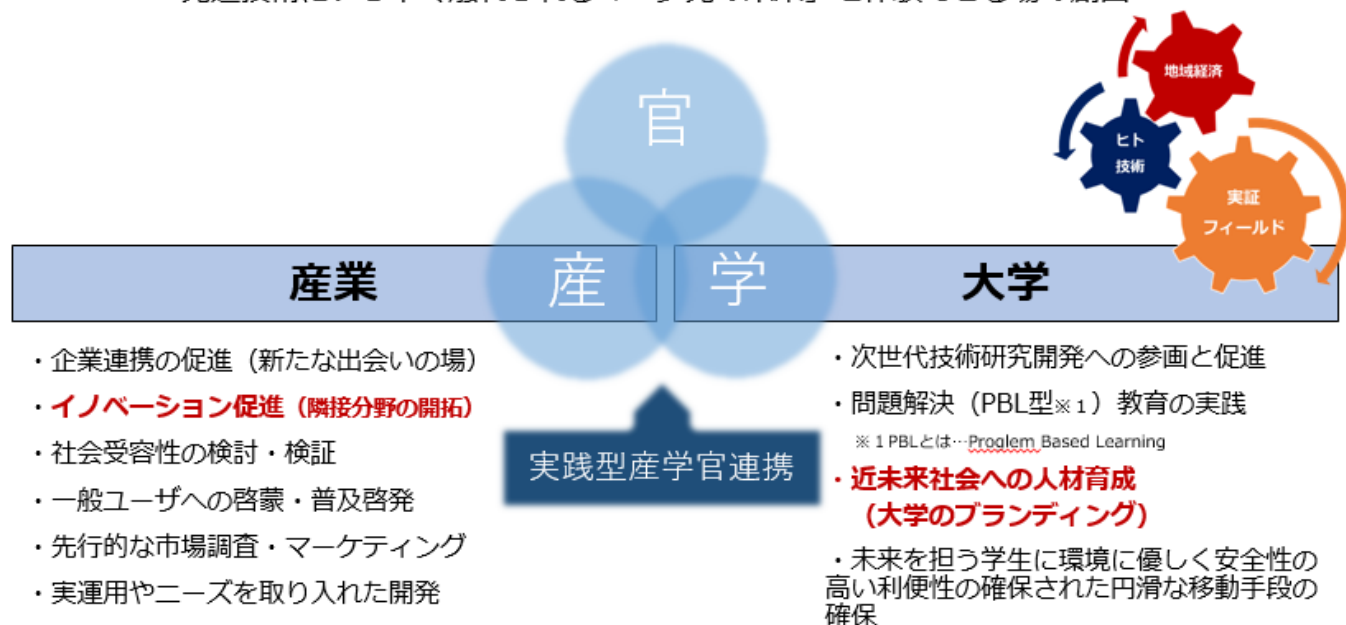
林業  
ドローン

# ECOPAドリームプロジェクトの目的

本事業は、袋井市産業経済懇話会での議論を受け、エコパ（小笠山総合運動公園）を中心とした愛野エリアを「近未来技術を磨く実証フィールド」に位置付け、ヒトや技術の新たな出会いにより、**既存産業やまち（地域）のイノベーションを促進させる**ことを目的とする。

## まちを先進融合技術の Show Case に

～先進技術にいち早く触れられる「一歩先の未来」を体験できる場の創出～



## ECOPAドリームプロジェクトの3つのゴール

3 Goal's	H30	H31	H32
実証事業の舞台を整える （環境づくり）	DMP取得 サイネージの整備	(例) 実証事業のニーズに合わせた環境整備 (例) ドローン規制緩和に向けた協議	
実証事業の活況化を促す （コトづくり）	県）自動運転実証 	(例) EV化への対応研究・パーツ開発 (例) マルチインフォメーション機能を活用したサービス検証 (例) ドローンを活用したサービス検証	
多面的な活用を促す （波及効果づくり）		実証事業への普及・啓発（実践型産学官連携の推進） 公的な利活用を含めた研究	



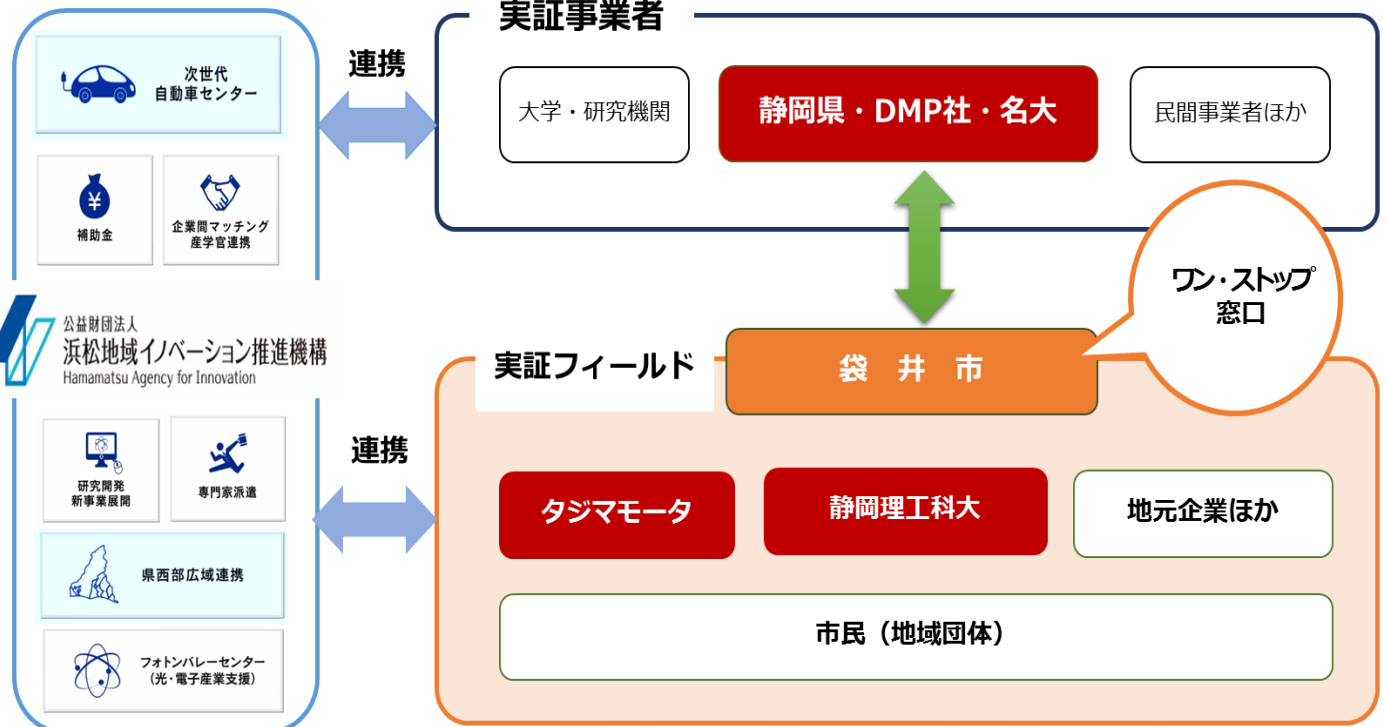
### まちを先進融合技術の Show Case に

～先進技術にいち早く触れられる「一歩先の未来」を体験できる場の創出～





# ECOPAドリームプロジェクトのスキーム（イメージ）



## 自動運転実用化へ始動

JR愛野駅⇄小笠山総合運動公園

## プロジェクト発足、県が方針

県と袋井市、名古屋大などが連携し、同市の小笠山総合運動公園とJR愛野駅間の公道



県や袋井市、名古屋大などが連携した自動運転の実証実験を行うプロジェクト発足式＝28日午後、県庁

約1.5キロ区間で行う自動運転の実証実験のプロジェクト発足式が28日、県庁で開かれた。3年間で開かれた。約1.5キロ区間で行う自動運転の実証実験のプロジェクト発足式が28日、県庁で開かれた。3年間で開かれた。

プロジェクトには、袋井市に事業所を構えるEV会社「タジマEV」（東京都）と地図製作会社「ダイナミックマップ基盤（同）」、静岡理工科大も参加する。実験に使用するのはタジマEVの2人乗り電気自動車。県が所有する県管理道路の3次元座標データを基に作製した地図を活用し、自動運転システムの制御には名古屋大の技術を生かす。

県によると、県内のバス乗務員の約半数が50歳以上で、人手不足の中、若年層の新規雇用も困難な状況。公共

交通機関の空白地を作らないためにも、自動運転の実用化への期待は大きいという。

プロジェクト発足式に出席した川勝平太知事は「イノベーションの先頭を走る素晴らしいチームになった。自動運転が実用化することを期待したい」とあいさつした。

（政治部・名倉正和）



静岡新聞

平成30年(2018年)5月29日 (火曜日) 朝刊

# (県事業) しずおか自動運転Show CASEプロジェクト

## 1 概要・目的

次世代自動車を活用した移動サービスの導入、検討を始める企業や地方自治体に対し、自動走行の技術支援を行うことにより、交通課題を抱える地域における有効性や社会受容性を確認するとともに、次世代自動車関連の技術開発を促進する。

**目的**

自動運転を活用した移動サービスの導入による地域交通の課題解決の検証  
 (運転手不足による路線バスの撤退、過疎地域等の移動支援、公共交通ICT化等への対応)

EV等、次世代自動車及び自動運転技術の開発による県内企業の技術開発を促進

## 2 背景

### 1 点群座標データの活用

県管理道路1,000km以上の点群座標データをオープンデータ化 ⇒全国初  
 ダイナミックマップ基盤(株)と静岡県との協定締結(2017.11)  
 ・県有データから高精度3Dマップ化(自動運転活用)に成功



### 2 自動車業界の将来予測

※ CASE  
 Connectivity: 接続  
 Autonomous: 自動運転  
 Shared & service: 共有  
 Electric: 電動

自動運転	0%⇒23%
EV化	1%⇒30%
カーシェア	3%⇒18%

2018 → 2035

### 3 エコパドariumプロジェクト

EV実験  
 ドローン実験  
 マルチメディア実験

小笠山総合運動公園を実験フィールドとして活用



## 3 実証実験の方法



### ①使う“場所”

自動走行の基盤整備  
 自動運転走行に必要な地図データの整備

県との協定に基づく県有データの有効性を検証

- 点群データ収集のための測量
- 点群データの3Dマップ化
- 自動走行用のセットアップ

ダイナミックマップ基盤(株) 高精度3Dマップ化

### ②使う“モノ”

自動運転の車両開発

- 県内関連企業の電気自動車
- 自動走行のための車両開発
- 制御システムの搭載

タジマEV

県内企業の参画を促し、EV開発推進と併せて自動運転技術を導入

### ③使う“方法”

運転制御システムの検証

- 運転制御、管理システムの検証
- 運行システムの検証
- オンデマンドの管制アプリの検証 等

名古屋大学 Tier IV

自動走行を制御するソフトウェアの支援

5月28日発足式



## 4 スケジュール

区分		2018	2019	2020
実施箇所	大規模イベント開催地	(エコパ)		
	中山間地・過疎地域		中山間地・過疎地域	
	地域振興・都市部地域		地域振興・都市部地域	